

理社が強いのは受験では武器になるのでこれは茨高の強みだ

R. S.

東京学芸大学 教育学部 中等教育教員養成課程（B 類）理科 進学
ひたちなか市立 勝田第二中学校 卒業

基本的に授業は大学進学を前提にして進められます。だから進学指導については基本問題ないと思います。しかしその指導の手厚さに甘えることなく必ず「自分で」日ごろから学習に励んでください。そのための個別的指導も教員の方たちはしっかりサポートしてくれます。高3になると多くの受験生が大学試験で必要となる数学と英語が習熟度別にクラス分けされます。自分のレベルに見合った学習ができるはずです。そのほか国際教養コースや医学コースといった特定の分野に特化したコースもあるので自分の進学したい大学学部にあわせてコースを選択してください。

私の代は新型コロナの影響があってほとんど学校行事が実施されませんでした。例年では2年次に海外研修旅行があり、自分の目的に合わせて用意されたコースから選択できます。公立高校が基本国内にしか行けないのに対し、茨高は国外に行けるので、この経験は自分の英語力の向上や視野を広げるのに大きく関わると思います。他は基本どの学校でも催される文化祭やクラスマッチがあり交友関係を学年、男女分け隔てなく広げることができます。

私が茨高を選んだ理由は、海外研修旅行などを通して英語力を高められると思ったのと、意外と理科や社会に強いといった特徴があるからでした。受験で主に勝敗を分けるのは、基本「英語」です。その理由は、文系理系問わず英語は受験で必須であり、私立大学の中でも有名な GMARCH や関関同立、早慶では英検などの外部試験が入試で課されることが多いです。英語できるだけで他の受験生と大きく差を開くことができ大きく有利をとれます。また、茨高には理社、特に理科の教員が多いです。これは東大・京大の受験生によくあるのですが、英語、数学、国語といった波のある科目でこけても理社が高いおかげで受かったという事例をよく聞きます。だから理社が強いのは意外と受験では武器になるのでこれは茨高の強みだと思います。ここまで聞けばわかる通り、茨高は受験を意識した高校です。だから「本気で大学に行きたい」人が入ることを勧めます。大学受験では茨高よりもずっと偏差値の高い灘、開成、筑駒、渋幕、麻布、日比谷、その他大学付属校の生徒も参戦します。私が進学する学芸大や筑波大、千葉大、横国はそれらの超進学高の生徒も含めて上位5～8%にいないといけません。ましてや東京一工や医学部は上位1、2%です。だから本気で大学受験を成功させたい生徒に勧めます。

私は進学後、中学・高校の理科の教員になるために勉強に励みます。今年、来年茨高に進学する皆さんとは、きっと将来教師という立場でお会いできるでしょう。そのためにこの4年間、理科の教員になることだけを頭において、頑張ります。皆さんも私と同じように第1志望の大学に合格し、好きなことを学べるようになるために頑張ってください。